

[野菜部門]

6. 手袋の消毒によるトマトかいよう病の地上部伝染防止技術

[要約]

ケミクロン G 500 倍液で消毒した手袋で作業することによりトマトかいよう病の地上部伝染を抑制することができる。

[担当] 病虫研究室

[連絡先] 電話 086-955-0543

[分類] 技術

[背景・ねらい]

県中・北部の雨よけトマト産地の一部で発生しているトマトかいよう病は激発すると甚大な被害を引き起こすが、管理作業に伴う病原細菌の地上部伝染が多発要因の一つであることから、地上部伝染防止技術を開発する。

[成果の内容・特徴]

病原細菌の菌液を噴霧した手袋（塩化ビニル樹脂製）で、葉柄を指で押しつぶすように摘み取った無消毒区での発病株率は 35.6%であるが、菌液を噴霧した後にケミクロン G 500 倍液を噴霧して手袋を消毒した（図 1）区での発病株率は 6.7%と低いことから、手袋の消毒は地上部伝染防止効果が認められる(表 1)。

[成果の活用面・留意点]

1. ケミクロン G は資材の消毒にのみ登録があるため、500 倍液が直接植物体へ触れることを避ける。
2. 圃場では 1 回の手袋の消毒で 50 株程度まで連続で作業できると考えられるが、圃場での発病株数によって消毒回数を増やす必要がある。
3. 手袋は消毒液が浸透しない素材（ゴム、塩化ビニル樹脂等）を使用する。
4. 伝染源を減らすため、発病株の早期抜き取りや植物残渣の持ち出しを行う。
5. 発病圃場ではハサミによる作業は避ける。

[具体的データ]

表1 手袋の消毒によるトマトかいよう病の地上部伝染の防止効果^z

手袋の消毒の有無	区	発病株数 / 調査株数	発病株率(%)	防除価 ^x	薬害
消毒区 (ケミクロンG 500 倍液を手袋に噴霧) ^y	I	0 / 15	0.0		-
	II	1 / 15	6.7		-
	III	2 / 15	13.3		-
	平均		6.7	81.2	
無消毒区	I	3 / 15	20.0		-
	II	5 / 15	33.3		-
	III	8 / 15	53.3		-
	平均		35.6		

^zあらかじめトマトかいよう病菌 (5×10^7 cells/ml) を手袋に噴霧した後に試験を行った。

^y 菌液を噴霧した後にケミクロンG 500倍液を噴霧し、1区15株を連続で作業した。菌液の噴霧とケミクロンG 500倍液の噴霧は1区ごとに行った。

^x 防除価は発病株率から算出した。



図1 消毒液の手袋への噴霧

[その他]

研究課題名：雨よけトマトかいよう病の生態解明による総合的防除技術の開発

予算区分：交付金（病虫害防除農薬環境リスク低減技術確立）

研究期間：2006～2008 年度

研究担当者：川口 章

関連情報等：平成 19 年度試験研究主要成果、33-34